

ヤジと民主主義
劇場拡大版

©HBC/TBS

しではら
かどま市が生んだ日本の総理

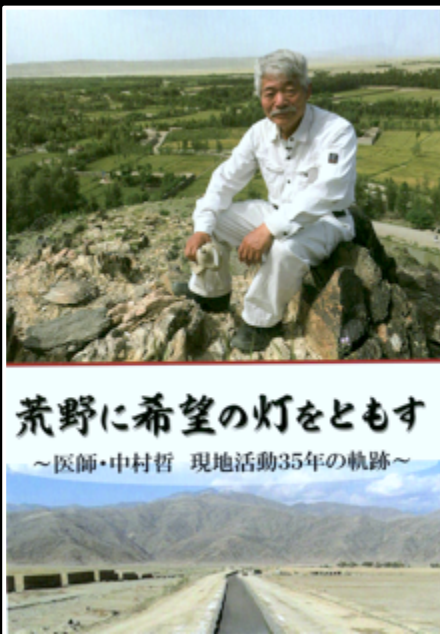
戦争のつくりかた
What Happens Before War?



憲法映画祭2024

4月29日(月・休) 10:30~19:30 武蔵野公会堂

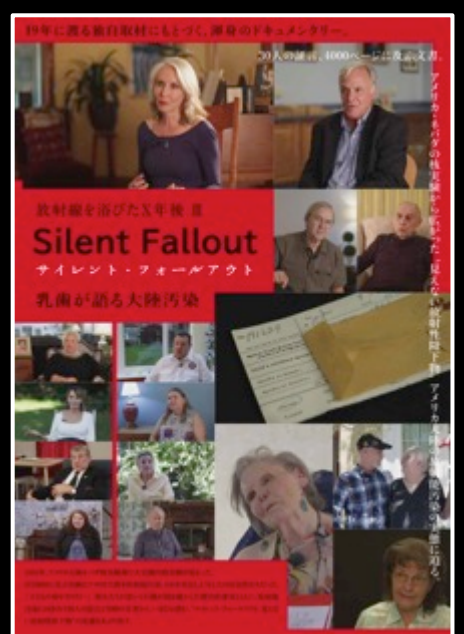
*参加費：1日券2500円(学生・若者1500円) 1回券1000円(学生・若者500円)



荒野に希望の灯をともす
医師・中村哲 現地活動35年の軌跡



ミサイル基地がやってきた
島で生きる



サイレント・フォールアウト
乳歯が語る大陸汚染

- | | | | |
|-------------|------------------------|--------|----|
| 4月29日 10:00 | 開場 | 10:20 | 開会 |
| 10:30 | 映画「ヤジと民主主義」 | (100分) | |
| 13:00 | 映画「しではら」 | (40分) | |
| 13:40 | アニメーション「戦争のつくりかた」 | (8分) | |
| 14:00 | 映画「荒野に希望の灯をともす」 | (88分) | |
| 15:40 | 映画「ミサイル基地がやってきた 島で生きる」 | (80分) | |
| 17:40 | 映画「サイレント・フォールアウト」 | (81分) | |



会場：武蔵野公会堂ホール

4月29日 憲法映画祭2024

10:30~19:30 武蔵野公会堂ホール (中央線・井の頭線 吉祥寺駅 南口2分)

参加費：1日券：2500円 学生・若者：1500円

1回券：1000円 学生・若者：500円

(「してはら」「戦争のつくりかた」「荒野に希望の灯をともす」は3作品で1回券になります)

2013年4月から始まった「憲法を考える映画の会」の上映会はこれまで75回になり、毎年憲法記念日を前に少し規模を大きくした「憲法映画祭」の形では、8回目になります。

この間、憲法について考える映画のほか、広く戦争や人権、民主主義について考える映画など、合わせて100作品を超える作品を上映してきました。作られたばかりのドキュメンタリー映画から過去の名作であってもなかなか見る機会が無い映画、また国内外の自主制作の作品まで、どれも広い意味で、憲法のめざしているものについて考える映画ばかりです。

私たちは、こうした上映会が、あちこちで開かれ、多くの人が一緒に映画を観て、憲法や戦争、人権や民主主義について考えていく場が拡がることを願っています。

現在、自分たちで上映できる映画作品のリスト「憲法を考える映画のリスト2024年版」を作成しています。憲法映画祭での完成をめざしていますので、会場で、あるいは下記連絡先まで、お問い合わせください。



©HBC/TBS

10:30~ 映画「ヤジと民主主義 劇場拡大版」

ヤジ排除から見えてくる警察組織の法的根拠のない権力行使、それを監視すべきメディア、ジャーナリズムの弱体化、そしてそもそも自由にもものを言うという全ての人に与えられた権利が、加速度的に萎縮してしまうのではないかと不安など、さまざまな側面が本作には盛り込まれている。これはもはや、ある選挙の応援演説中に起きた一騒動ではなく、この社会で生活していく全ての人、あなた自身に関わってくる問題だ。(100分/2023年/山崎裕侍 監督作品)



13:00~ 映画「してはら かどま市が生んだ日本の総理」

1872年、門真市で生まれた幣原喜重郎は、戦前は外務大臣として軍縮と国際協調の「幣原外交」をすすめるも、軍部からは「軟弱外交」と非難され一度政界を退く。しかし、戦後、幣原は首相として政界に復帰。GHQの元帥マッカーサーと会談し、幣原から平和主義の重要性・戦争放棄などを主張し、日本国憲法の草案にその考えが反映されることとなった。彼のそうした考え方には、彼が戦前から取り組んできた「国際軍縮会議」で得た「国際協調」による平和主義の思想があった。

(40分/2023年/齊藤勝 監督作品)



13:40~ アニメ「戦争のつくりかた What Happens Before War」

私たち日本に住む国民は、約70年、直接には戦争を経験していない国の中で生きてきました。しかしこのまま行けば、次の世代が戦争を経験することになってしまうかもしれません。戦争を知らない世代が、自分たちの都合や責任感の無さによって、次の世代に戦争を押し付けてしまうことになるかもしれないのです。映像作家など40人のクリエイターが反戦への思いを込め、力をあわせて完成したアニメーションです。(8分/2015年/アニメーションプロジェクトNOddIN制作)



14:00~ 映画「荒野に希望の灯をともす 医師・中村哲 現地活動35年の軌跡」

アフガニスタンとパキスタンで35年にわたり、病や戦乱、そして干ばつに苦しむ人々に寄り添いながら命を救い、生きる手助けをしてきた医師・中村哲。NGO平和医療団日本(PMS)を率いて、医療支援と用水路の建設を行ってきた。その長さだけでなく、支援の姿勢がまったくぶれることなく、一貫していたこと。中村医師は人々から信頼され、愛されてきた。今、アフガニスタンに建設した用水路群の水が、かつての干ばつの大地を、恵み豊かな緑野に変え、65万人の命を支えている。(88分/2021年/谷津賢二 監督作品)



15:40~ 映画『ミサイル基地がやってきた 島で生きる』

2023年3月、沖縄石垣島では陸上自衛隊ミサイル基地が完成。住民投票を求める石垣市有権者による自衛隊配備の賛否を問う住民投票条例請求署名は、有権者の3分の1以上に当たる14263筆が集まった。しかし石垣市は未だに住民投票を実施していない。「住民投票を求める会」は、裁判で闘い続けている。署名をしてくれた人たちに答えるために、住民投票を求める若者たち、農民兼市議会議員漁師などの基地に対する人々の思いを丹念に紡ぐ。(82分/2024年/湯本雅典 監督作品)



17:40~ 映画『サイレントフォールアウト 乳歯が語る大陸汚染』

1951年からアメリカ国内で始まった核実験は928回に及んだ。核実験によって生れた膨大な量の放射性物質は、アメリカ各地に運ばれ、地上を汚染し続けた。アメリカ原子力委員会は、放射性物質が全米の牛乳を強く汚染していることを把握していたが、国民に知らせなかった。1950年代半、大陸が放射能汚染していることを国民は徐々に知ることとなり、とくに放射能汚染の影響が強いとされるセントルイスで女性を中心とした大きな動きが生まれる。「乳歯調査」と呼ばれる活動だった。(80分/2023年/伊東英朗 監督作品)

問合せ：憲法を考える映画の会

〒285-0024 東京都国分寺市泉町3-5-6-303

E-mail: hanasaki33@me.com ホームページ: <http://kenpou-eiga.com> TEL: 042-406-0502